

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary

2025-2026年

Rotary  District 2640 Japan

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

海南東ロータリークラブ

会長 大江 久夫 幹事 田中 淳 SAA 榊原 由希子

RI会長 フランチェスコ・アレツツォ
2640 地区ガバナー 北野 治義



第 2250 回例会

2026年3月9日(月)



12:30～ 海南商工会議所 4F
会員卓話 職業奉仕について



1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「我等の生業」

3. 出席報告

会員総数 40 名 出席者数 32 名
出席義務規定適用免除会員 1名
出席率 82.05% 前回修正出席率 79.49%

4. 会長スピーチ

副会長 中西 秀文 君

皆さん、こんにちは。3月は「水と衛生月間」です。

きれいな水を利用できることは、基本的な人権です。しかし世界には、適切な衛生設備が利用できない人が 25 億人と、安全な飲み水が得られない人が 7 億 400 万人おり、さらに毎日 1,400 人の子どもが劣悪な衛生環境と不衛生な水を原因とする病気で命を落としています。国連は 2015 年、環境と気候変動に対応しながら貧困問題と福祉改善に取り組むために「持続可能な開発目標」を設定しました。目標の一つは水と衛生に関する項目「すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」ことを目標としています。

ロータリーでも井戸や雨水貯水システムの設置、水設備管理の研修、疾病予防のための水・設備の提供など水関連の多くの活動が世界中で実施されています。海南東 RC のフィリピンでの水支援、トイレ設置プロジェクト支援もその一つにあたります。地球には、およそ 14 億立方 km すなわち約 140 京(けい)トンもの水があります。そのうち 98%が海水で残り 2%が淡水(飲み水として利用できる)です。しかしその淡水の約 70%が南極と北極にある雪や氷、残りの約 30%が深いところにある地下水で利用することが出来ません。身近に利用できる川や湖の水は全体の 0.03%しかありませんので地球の水はとても大切だということです。



3月は「水と衛生月間」です

日本は世界の中でも雨の多い国です。しかし地形的に山が多く川が短いので世界の平均よりも少なくなるということです。改めて水の大切さを感じます。

次に、今は暦の上では啓蟄(けいちつ)(3/5~3/19頃)にあたりますが「啓」は「開く」、「蟄」は「虫などが土中に隠れ閉じこもる」の意味で冬ごもりをしていた虫や生き物が暖かさを感じて土の中から這い出てくる、春の訪れを告げる時期です。この頃は日差しが強まり、草木が芽吹く生命感に満ちた季節になります。

ただ反面、今は学生にとって就職活動で大変な時期です。啓蟄という季節を表わす言葉には、これから社会に飛び出そうとする若者の姿が、自然界の命にかさなっていると思える時期でもあり、蝶のように羽ばたいてほしいという願いの意味合いが込められています。これから未来ある若者には頑張ってもらい、今日、職業奉仕の会員卓話となっていますのでよろしくお願い致します。

5. 幹事報告

幹事 田中 淳 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山西 RC 3月25日(水) 18:30～

鉄板焼「石田」

(桜花の親睦夜間例会)

粉河 RC 3月25日(水) 10:00～

道の駅 青州の里

(BS 助成金贈呈・ロケットストーブ例会)

有田南 RC 4月21日(火)→19日(日)

大阪方面(天満天神繁昌亭ほか)

(親睦バス旅行)

○例会休会のお知らせ

有田南 RC 4月28日(火)

○3月のロータリーレート

1\$ = 156円

6. 会員卓話

○上野山 雅也 君

職業奉仕の委員長は、過去に確か2回ほど就任している関係から少しは、勉強しているつもりですが難解な点多く、それをうまく伝える術も持ち合わせていません。本日は時間も限られているということで私の考える要点だけ喋りたいと存じます。



四つのテスト 誰はこれにたっしてから
① 真実かどうか ② 好意と友情を深められるか
③ みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか

Rotary 

よいことのために
手を取りあおう

事務所 〒642-0002
海南市日方 1294 (海南商工会議所 4F)
TEL:073-483-0801 FAX:073-483-2266

「ロータリーのロータリーたる所以は、職業奉仕の実践」にあると言われていました。

混同されるのが「社会奉仕」との区別で自分の職業を通して社会に奉仕することが職業奉仕とされている方がいらっしゃいますが、職業を通すと通すまいとこれは、社会奉仕になります。しかし、この中に職業奉仕が含まれていないわけではありません。この問題は、奉仕を受ける受益者の相違となります。つまり、受ける側が相手側である場合は、社会奉仕。自分自身の場合は、職業奉仕ということになります。

ロータリーは、他団体と違い奉仕の基礎を職業倫理におき、職業の心も奉仕の心も一つの心であると考えます。そのため、ロータリーには倫理に反する儲けは存在しません。他団体では、非倫理的な金儲けにおいて儲けたお金であっても問題にしません。

所謂、「NOT I SERVE, BUT WE SERVE」と「I SERVE」の違いとかと思います。結論として、ロータリーの職業奉仕はロータリアンの奉仕の心を職業社会に実践するものであるからロータリアン一人ひとりの「個人奉仕」でありロータリークラブには職業奉仕の実践機能はなく、「職業奉仕」の団体である概念はないものと言えます。

また、現在社会において、職業倫理が強く叫ばれる折柄、「職業倫理」を強く提唱するのが、まさに「ロータリー」であり、私たちロータリアンが、自覚を持ち職業倫理を実践していくことを望む次第です。

○田中 淳 君

職業奉仕について、ネットで調べて少し勉強しました。職業奉仕という言葉は職業サービスと置き換えて考えると

1.適正な価格、2.経営者・従業員の接客態度、3.品揃え、4.公正な広告、5.取扱商品に対する知識、6.アフターサービス となるそうです、この項目を自分の職業に置き換えて考えてみました。

1.適正な価格

私たちの業界では、設計業務に対する歩掛が国土交通省で作成されてそれによって業務価格が決められています。また、一般競争入札という制度で入札をして落札業者がきめられます。落札価格は最低金額を下回ると失格となり、最低制限価格より少し上の業者が落札する仕組みとなっておりますので、適正な価格で受注しているといえます。

2.経営者・従業員の接客態度

私たちの業界では、お客様のことを発注者と呼びます。業務を進めるうえで計画段階や設計段階で何回も打合せを行います、その時には相手が何を求めているかを考えていつも相手の立場にたって業務を進めています。

3.品揃え

私たちの業務は多岐にわたります、測量、道路設計、河川砂防設計、橋梁設計、トンネル設計、その他いろいろな業務がありますが技術や知識と経験が必要となりますので経験の無い業務については入札していません。



4.公正な広告

私たちの業界では広告はほとんどしていません、ホームページを作成して掲載している程度でありその中で業務の実績や技術資格者数などを掲載しています。

5.取引商品に対する知識

私たちの扱う業務の商品としては、設計図面、設計計算書、設計報告書等となります。その商品を作成するにあたっては知識が無いとできません。

6.アフターサービス

設計業務の成果品(商品)を納品してから発注者が工事発注をします、工事の際に設計内容を一部変更したい等の相談がよくあります、そうゆう時でも対応して工事完成に協力することがアフターサービスになるのかなと思います。

以上、私の仕事における職業サービスの内容を説明しましたが、今後も今まで培ってきた技術や知識をより広げて、利用者(国民)の皆様が安全で使いやすい公共インフラの整備に努力をしていき職業奉仕の幹を太くしていきたいと思えます。

○田岡 郁敏 君

本日は「ロータリークラブの職業奉仕における歯科医業」について、お話しさせていただきます。



ロータリーにおける職業奉仕とは、実は私もあまりわかっていませんが単なるボランティア活動を指すものではないと思っています。国際ロータリーでは、職業奉仕を「事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践すること」と定義しています。

つまり、日々の仕事そのものが奉仕の実践の場であるということです。

歯科医業は、この職業奉仕の理念と非常に近い職業だと思っています。歯科医業は、医療の中の一部ですが、そこで得られる保険収入は診療報酬という言い方をします。診療報酬の額は2年に一度改定されその時々に合わせてものに決められていますが、昨今の医療費削減の流れで非常に低く抑えられてきました。これも奉仕の中の一つでしょうか？ 地域の人々の健康を守り、生活の質を高める重要な社会的役割を担っていると考えます。ただこのことは患者さんとの信頼関係がなければ成り立たず、高い倫理観が常に求められていると思えます。

ロータリークラブの「四つのテスト」は、歯科診療の現場において、まさに日々問われていると感じています。わかりやすい説明を行う、患者さんの立場に立って最善を尽くす。これら歯科医として誠実に診療を行うことが、職業奉仕の実践だと思えます。

また歯科医師は、地域社会に貢献する一環として学校での歯科健診や、はみがき指導、節目歯周病健診、また学校保健会に参加して学校の先生や父兄、そして他科の校医の先生との情報の共有、高齢者施設での訪問診療や歯科相談など、職業奉仕と社会奉仕が結びついた活動だと思えます。

当院は多くの小児が来院します。大人でも緊張する

環境で、2歳3歳で初めて治療することになります。そんな小さな子どもが玄関に入って、まず、最初にすること。それは雰囲気を感じ察知することです。必ず診療室の中を覗き込みます。そんな時一番シンプルで緊張をほぐす方法は単純ですが笑顔で手を振ってあげることです。ロータリーソングの中にも、「やあ」と言おうよとか、「手を振りあおうよ」のフレーズがありますが、まさにリラックスして気を許せる雰囲気づくりが基本だと思います。歯科医業における職業奉仕とは、特別なことをするのではなく、日々の診療に誠実に向き合い、倫理を重んじ、地域社会の健康に貢献すること。その積み重ねが、職業奉仕であると考えます。

○倉橋 利徳 君

くらはしクリニックの倉橋です。本日は、内視鏡医としての職業奉仕ということでお話をさせていただきます。ロータリーにおいて職業奉仕とは、単に仕事に励むことではなく、自らの職業スキルを通じて社会に貢献することだと自分は理解しています。自分は開業医として日々内視鏡検査をしている中で思っていることがあります。どうすれば患者さんがもっと気軽に、もっと安心して検査を受けて頂けるかということです。胃がんや大腸がんは早期に発見すれば治せる病気です。しかし内視鏡検査に対して苦しい、怖いというイメージをお持ちの方は依然として多く、その心理的な壁が、救えるはずの命を遠ざけている現実があります。自分はまず検査のハードルをさげて、できるだけ多くの人に検査を受けて頂くことが重要と考えます。



大腸がんの死亡率を日本とアメリカで比較すると、日本の人口はアメリカの約4割にもかわらず、大腸がんの死亡者数はほぼ同数であり人口あたりでは日本の方が圧倒的に高いといわれています。その理由は検診システムの差と言われています。アメリカでは10年に一度大腸内視鏡検査での検診が認められています。対象者の約6割が大腸内視鏡検査をつけるそうです。日本では便潜血検査が導入されていますが、検診受診率が約40%であり、そのうち要精査が約7%で、精密検査の受診率が約60%と低水準です。大腸内視鏡検査をあまり受けていないこととなります。大腸がんは予防しやすいがんであり、検診による早期発見・早期治療が非常に重要です。特に大腸ポリープを切除することは、究極の大腸がん予防と考えられています。自分は内視鏡医として、胃がんや大腸がんで亡くなる人を減らしたいと考えています。皆さん、検査を受けてください。もし検査をうけていない人がいたらくらはしクリニックにきてください。以上になります。本日はご清聴ありがとうございます。

○奥 善全 君

今回、私なりに職業奉仕についての考えをまとめてみました。職業とは社会に何らかの価値を提供してその代償として対価を得ることで経済活動を営



むことであります。持ちつ持たれつ、売り手よし、買い手よし、さらには世間良しといったいわゆる“give and take”で成立することであることは原則だと思えます。いろんなところで話を聞くと“give and take”ではなく“give”の精神を持つことの重要性が語られていました。また、ロータリーの奉仕の精神は“I serve”であります。Takeがなくgiveだけ行うの？と自身の中でtakeがないgiveやserveの精神が持てるのか、持てているのか・問うてみました。

今回この年末にあった話を紹介します。70台男性かかりつけ患者さんとして定期的に通院されている方が年末に急激にたいちょうを崩し病院紹介したところ、治療手段のない上顎洞癌の終末期であり、突然、余命10日程度しかないことがわかりました。彼は自宅で最期を過ごしたいと病院を介して私に在宅医のオファーがきました。それは12月24日の話でしたので、彼を引き受けた場合年末から年始にかけて私が彼を見なくてはなりません。

この正月私は家族で台湾に行こうとめったにない家族旅行を計画しとてもたのしみにしていました。その方は元気な時からから“最期は安楽死させてくれ”と何度もおっしゃっていたこともあり、彼の最期の時間を診る覚悟をして台湾旅行を取りやめ一人和歌山にのこる決断をしました。痛みへの対処等を行いながら年末年始自宅に訪問しました。最終1月3日朝に訪問した際に気づくと呼吸が微弱になっており、そのまま数分後に穏やかに息を引き取られました。ご自宅でお看取りすることは多くあるのですが息を引き取る瞬間に立ち会うということはほぼありませんので、私を待っていてくれたのかなと思うような神秘的な瞬間でした。

私は自身にとって貴重な旅行をあきらめて損なくしを引いてしまったなという思いもありましたが、彼の望みに沿って大切な最期の時間を演出することができたことは、医者冥利というのでしょうか、とてもですがうれしい充実感を得ることができました。旅行を取りやめたことは自身にとっては彼の役に立ちたいというgive and takeをこえたgiveの精神があったのかともおもいます。自身は職業人としてのすがすがしい充実感を得ることができました。結局は充実感をtakeすることはしていますのでgive and takeなのかもしれません。

医療人の職業奉仕の話は確かに分かりやすいのかもしれませんが、今回のようなわかりやすい話だけではなく私たちはみな職業ビジネスの場でgive and takeで利害を調整しながらではありますが、日々きつと知らず知らずのうちに小さいgiveの気持ちをもってgiveやserveをしているのだと思います。損したように思うこともあります。giveして充実感や幸福感をtakeしているのかもしれないと思いました。でも自身の中にtakeしたい気持ちが強くでてしまっただけでgiveの精神をわすれていることも多くあると思います。今回、たまたま自身はgiverになることができたが、小さいことでもgiveやserveをもったいぶることなく

さりげなく人が気づかないところでも自然にすっとできる職業人、人間になりたいとおもいます。

○小椋 孝一 君

職業奉仕委員会とは、職業を通じて社会に奉仕することを会員誰でも知っている事であり、このことから我社では、地元企業として地元の学校の生徒にグループになってもらい、ゴミの分別収集やペットボトルの分別はなでするのか、分別収集をする事でどうなるのか、など実践勉強などしてもらっています。又、トイレや雑排水を処理する浄化槽についても水質をきれいにするための保守点検方法など勉強させたりしています。今まででしたら、我社みたいな清掃会社は目も止めなかったが最近では関心あるようで、よく見学に来てくれています、これこそが職業奉仕の原点であると考えます。



7. 閉会点鐘

次回例会 第 2251 回 3 月 16 日(月)
12:30～ 海南商工会議所 4F
会員卓話 職業奉仕について



水と衛生への新たなアプローチ

人びとが安全な水を持続的に利用できるようにするために、ロータリーが新たな方法で挑む

安全な水、衛生施設や衛生リソースの不足は、世界で最も大きな保健問題の一つです。これはまた、解決が最も難しい問題でもあります。

ロータリーはこれまで何十年にもわたり、井戸を掘り、配管工事を行い、浄水設備を整え、流し台やトイレを設置するなどして、人びとが安全な水を利用できるよう支援してきました。しかし最大の課題は、このような設備が整えられた後にあります。それは、はじめにプロジェクトが成功してもゆくゆくは失敗に終わるケースゆくゆくは失敗に終わるケースが頻繁にあるからです。

アフリカ、南米、南アジアの一部では、まるで持続不可能となった奉仕プロジェクトの証とでもいうように、錆びた給水ポンプや老朽化した衛生施設があちこちに見られます。独立して調査を行った「Aguaconsult」社による 2013 年の報告では、ロータリーが実施したプロジェクトでのこのような問題が取り上げられました。また、より効果的なプロジェクトを計画する上での持続可能性の重要性にも触れられています。

ロータリーがここ数年、活動の焦点を教育、協力、持続可能性に転換したのもこれが一つの理由となっています。ロータリー財団のグローバル補助金、ロータリアン行動グループ、米国国際開発庁 (USAID) とのパートナーシップによって、ロータリーの水と衛生プログラムである「WASH プログラム」は、より効果的で持続的な変化をもたらしています。

「ロータリーの水と衛生プロジェクトはどれも、思いやりと善意で実施されていますが、その多くが地域社会の実際のニーズにできていなかったのです」と語るのは、「水と衛生のためのロータリアン行動グループ」の創設者で名誉会長の F. ロナルド・デンハムさんです。2007 年に結成された同グループは、ニーズと持続可能性を重視しています。過去には、設備や施設が適切に設置され、人びとからも良い反応がありましたが、地元住民の当事者意識、教育、持続可能性が欠けていたことがありました。また多くの場合、地域社会が自立して長期的にプロジェクトを管理するのに十分な支援がありませんでした。



これまで井戸の設置に重点的に取り組んできたロータリーのプロジェクトは、その焦点をより効果の高い衛生教育プロジェクトに変えました。

持続可能性の障壁の一つは、人的支援への継続的なニーズです。

ロータリー会員は、もともとボランティアです。「誰でも同じように、ロータリアンにも仕事や家族という優先があります」とデンハムさん。これまで 30 年以上、クラブと協力して水と衛生の問題に取り組み、エチオピア、ガーナ、インド、ケニア、ウガンダでプロジェクトを指揮してきました。「私たちは力を尽くしていますが、援助を必要としています。成功には、外部に支援を求めることが不可欠です」

地域社会のかかわりと当事者意識

今日、プロジェクト成功のカギは、補助的なリソース、資金、技術、人脈、文化に関する知識といった専門知識を提供する団体との協力にかかっています。「クラブは、地域社会とそのリーダーや専門団体と密着して活動する必要がある」と「またさらに重要なのは、地域社会のニーズを理解することです。地域社会に何が 필요한かを憶測で判断してはなりません」ロータリー財団は長年の活動を通じて、長期的な変化をもたらすには地域社会の関わりが極めて重要であることを学びました。現在、他国で実施する一部のプロジェクトでは、補助金を申請するクラブに対し、プロジェクトの計画に地元住民が関わったことを証明することを義務づけています。取り組む課題を選び、地元で利用可能なリソースや解決策を判断し、長期的な管理計画を作成するには、地域社会の参加が必要とされます。

